

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 6 月 27 日

事業所名 あすなろリズム

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	5		幼い子は眠る子も多く、音や明かりを遮られるような個室があると尚良い
	②	職員の配置数は適切である	3	5		もっと人手が欲しいなど感じる日もある
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	5	2	玄関の階段の差が大きく危ない
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	3		室内清掃、換気、消毒を毎日行っている 床は柔らかいマット
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1		月1回面談を行っています
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1		結果をスタッフ間で共有しながら改善していくよう努めています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	5		HPにて公開を行っている
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5		評価を行い改善している
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	1	評価を行い改善している
適切な 支援の 提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	2		行っている
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	2		担当者会議を行いニーズや課題を分析した上で計画の作成に取り組んでいます。また、家族だけではなく、相談室さんとも連携を取っています
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	2		計画内容を会議で意見を出し合い立案している
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			季節や行事を組み込み会議等で話し合い立案している
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1		スタッフで話しあい、プログラムの意見交換を行っている
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	2		個別活動は少ないが組み合わせ作成している
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1		話し合いを行い役割を決めている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4		スタッフ同士のコミュニケーションを密に行い情報共有をしている

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			HUGを利用
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			児発管が行っている
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2		主に児童発達支援管理責任者が出席しています
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	2		情報の共有を行っている
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	2	1	わからない
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	2	1	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	2		毎月レッスンをしている保育園もあるため、相互理解を図っている
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3		送迎時に会話等行い、情報共有している
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3		研修への参加を心がけています
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	1		月1度課内レッスンや、体験レッスンに伺わせていただいている。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	4		
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			送迎時の会話や、HUG、LINE等を活用して伝えている
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	3	4		学習会などに参加し、支援の機会を設けていきたいと考えています
保護者との説明責任等	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1		契約時に説明を行っている
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			児童発達支援管理責任者が行っています
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2		都度対応している
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	1	コロナウィルス前は茶話会やBBQを行っていた
	㊱	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1		マニュアルを活用し適切に対応しています
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1		はつらつだよりやLINEの活用
	㊳	個人情報の取扱いに十分注意している	8			充分注意しています

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			目で見てわかる様視覚支援も取り入れている
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	3	親子イベント招待をしていますが現在はコロナ化なので行っていません
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1		社内研修、訓練を行い、保護者へはHUGやお便りで周知
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	2		社内研修、訓練を行っている
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8			契約時に確認を行っている場合や、風邪薬等であればその都度連絡をいただいている
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			保護者様からの情報を社内にて共有し対応している
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		ファイルを作成し共有している
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1		全体で取り組んでいる
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1		記載している

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。